

# 未来を拓く ストラテジ ーの選択

全ての解決策（ストラテジー）が既にある 【マ  
インド編】

梶間 津洋志

経営士・技術士 | センシュウカイ

# 未来を拓く ストラテジー の選択

---

全ての解決策（ストラテジー）が既にある 【マインド 編】

まえがき

全ての解決策（ストラテジー）が既にある、というのが本書のスタンスです。

2500年以上も前に書かれた「孫子の兵法」が今も多く経営者の懐刀となっています。また、古典の名著「論語」は日本実業界の父として著名な渋沢栄一の愛読書としても知られていますし、シェイクスピアは欧米のエリートにとって必読の書となっています。100年以上前に登場した「引き寄せの法則」やその原点となった「思考は現実化する」に魅了された多くの成功者もいます。

人は歴史的にも社会的にも、時と空間の中でつながって生きているのであり、今ある状況が未曾有の危機にあったとしても、過去をたどれば、どこかで同じような場面に遭遇し、そこで生き抜く術を見出した人がすでに存在していても不思議ではありません。

つまり、人生の岐路にさしかかって右なのか左なのか、進むのか進まないのか、といった判断は、実は長い歴史の中でどこかで誰かが既に経験し乗り越えてきており、その知恵が記録として存在します。ですから、私たちは例えば地質学者が地層を丹念に辿れば、過去のみならず未来も予想できるように、思想や哲学書、戦術書などを尋ねれば誰でも必ず状況に対応できる、対応策が手に入ります。

これは個人のみならず会社であつても同じです。古くは孫氏の兵法や宮本武蔵の五輪書に始まり、ドラッカーなど現代の経営書至るまで、すぐに手に入るものでも幾千万の戦術・戦術があります。

もっと崇高で本質的な真理は、未来永劫不変の智慧として仏様の悟りとか神様の啓示という形で示され、しっかりと伝えられています。加えていえば、自身の経験の範囲でも、ある時“これはいつか見た情景と同じだ”と思ひ当たる、不思議世界と繋がった理

屈を超越した経験事もあると思います。

世界は進化しています。生存競争という、DNAがまるで人間を争いにけしかけている戦いは人類の進化の歴史そのものでもありません。有史以来、世界大戦を経た現在においても、生存のための過酷な戦いが、戦闘フィールドのみならず日常の至るところで行われていますが、全体としてみれば進化しているのは間違いないのですから、勝敗は勝つほうが優勢なのです。

つまり、勝つ戦略は必ずある、ということを示しています。

本書は幾千万の戦略戦術の基盤となっている心の在り方「マインド」について8編（前編）、具体的ストラテジーのスキルを15編（後編）にまとめてみました。

~~~~~

## 本書の読み方

~~~~~

第I編 マインド編では、諸事象の基底に流れるマインドをテーマに掲げています。

たとえば、次のような場合です。

有名な兵法である孫子の兵法では「戦いは短期に決すべし」との兵法を教えています。この教えの流れから「兵は拙速を貴ぶべし」「先手必勝」なども出てきます。おっしゃる通りなのは戦況が悪く長引けば長引くほど兵は疲弊するからです。ですからこの戦略は、ビジネスでは中小企業が大企業に立ち向かうときなどにも引用されることが多いですし、ネットビジネスの勧誘などの多くがこの手法を応用しているように見えます。

一方、渋沢栄一の「論語と算盤」では「時期を待つ要あり」と要諦を説いています。

渋沢栄一は、争いごとは進歩と発達に不可欠とした上で、争いを避けず「時期の到来を

気長に待つ」ことが処世術として大切だ、と説いています。

では現実のビジネスの世界ではどうでしょうか。単に勝つだけではなく、その勝ち方が問題になったりしますし、たとえ勝っても今流行りの「倍返し」があったり、あるいは会社でいえば中長期から見ての信用とかアフターサービスとかの面で信用を失うようなケースが後から出て来ることもありますから、万事多面的に考えておく必要があります。

もともと孫子の兵法で最も有名は戦術の一つが「戦わずして勝つ」ことでありますし、さらには「負けるが勝ち」という江戸時代からの有名な鉄則や「勝ちを譲る」という賢人の対応などなど、シチュエーションでいろいろと変わってきます。

これらのベースにあるものは、「状況判断」であり、「己を知り相手を知る」ことで得られる先を見据えた戦略なのです。

よって第一編では、会社を起こそう、あるいは継ごうと決意した「Aさん」がその後遭遇する諸課題に立ち向かって戦い、そして中長期的に勝利していく過程を8つのステージに分けて、必要なマインドが何か、そして柔軟に対応するための武器を躊躇なく選  
択できるよう、お手伝いしていく流れとしています。

そしてAさんが「描く未来像」とはどんなものかにも焦点を当てています。

それでは皆さん、未来を拓く舞台に楽しんでいくこととしましょう。」



## 目次

はじめに

本書の読み方

§ 1 意志あれば道あり 〳成功を引き寄せる法則〳

★ 耳を澄ませば声が聞こえる

1 「天命」は感じ取るもの

2 聖職者のメッセージ

3 ドラッグーのマネジメントに応用

4 引き寄せの法則と戦略戦術

## § 2 ピンチとチャンスに満ちた山を登る覚悟

- ★ あの山は夢で見た山
- 1 熱い思いと覚悟
- 2 小林寺拳法の創始者、宗道臣の覚悟
- 3 吉田松陰流の「覚悟の磨き方」
- 4 変化激しい現代社会を生き抜く覚悟

## § 3 自分で決めた道を歩む

- ★ 大海原で出会うもの 行くしかないだろ！
- 1 会社の使命感は経営者そのもの
- 2 リーダーの使命感は伝搬する
- 3 未来にある解決策

続きは  
完成版で  
お楽しみ下さい。